

# U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

## 米国 受注のモメンタムは年末にかけて加速 (05年12月耐久財受注)

発表日：06年1月26日(木)

～生産の拡大継続を示唆～

(No. UI - 186)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

耐久財受注 (Advance Report on Durable Goods Manufacturers' Shipments and Orders)

|       | 出荷   |        |         |        | 受注   |        |         |        | 在庫   |        |      |        |
|-------|------|--------|---------|--------|------|--------|---------|--------|------|--------|------|--------|
|       | 耐久財  | 除く輸送機器 |         | 非国防資本財 | 耐久財  | 除く輸送機器 |         | 非国防資本財 | 耐久財  | 除く輸送機器 |      | 非国防資本財 |
| 04/1Q | +2.3 | +2.1   | (+8.1)  | +1.9   | 0.1  | +0.6   | (+2.4)  | 1.8    | +0.8 | +1.1   | 0.0  |        |
| 04/2Q | +2.7 | +4.8   | (+12.9) | +3.9   | +2.5 | +3.3   | (+13.7) | +2.3   | +2.6 | +2.9   | +2.4 |        |
| 04/3Q | +2.2 | +3.4   | (+14.3) | +3.7   | +2.4 | +2.8   | (+11.7) | +4.2   | +2.4 | +3.0   | +2.4 |        |
| 04/4Q | +1.8 | +2.2   | (+13.1) | +2.6   | +1.4 | +2.1   | (+8.5)  | +1.7   | +2.1 | +2.2   | +2.0 |        |
| 05/1Q | +1.4 | +2.5   | (+13.5) | +3.7   | 0.3  | +2.5   | (+10.5) | +4.8   | +2.5 | +2.5   | +1.9 |        |
| 05/2Q | +0.5 | +0.0   | (+8.3)  | +0.3   | +5.3 | +0.5   | (+2.0)  | +0.5   | 0.2  | +0.0   | 0.1  |        |
| 05/3Q | +1.3 | +1.1   | (+5.9)  | +0.8   | 0.1  | +2.2   | (+9.1)  | +1.0   | +0.6 | +0.6   | +2.2 |        |
| 05/4Q | +3.6 | +3.2   | (+6.9)  | +3.5   | +7.1 | +2.1   | (+8.7)  | +2.5   | +1.2 | +1.0   | +0.4 |        |
| 05/01 | 0.4  | +0.5   | (+15.9) | +2.1   | 2.9  | 0.9    | (+13.5) | +1.3   | +1.3 | +1.3   | +1.1 |        |
| 05/02 | 1.5  | 1.2    | (+15.3) | 2.0    | +1.6 | +1.5   | (+16.1) | 0.3    | +0.6 | +0.4   | +0.1 |        |
| 05/03 | +0.6 | +0.5   | (+9.5)  | 0.2    | 1.9  | 0.1    | (+4.4)  | 2.1    | +0.3 | +0.1   | +0.3 |        |
| 05/04 | 0.0  | 0.5    | (+8.1)  | 0.1    | +0.5 | 1.8    | (+6.7)  | +0.8   | +0.0 | +0.3   | 0.1  |        |
| 05/05 | +0.8 | +0.9   | (+9.3)  | +1.9   | +7.3 | +0.9   | (+6.4)  | 0.5    | +0.2 | +0.1   | +0.1 |        |
| 05/06 | +0.2 | +0.2   | (+7.6)  | 0.2    | +1.9 | +3.7   | (+11.3) | +4.9   | 0.4  | 0.3    | 0.1  |        |
| 05/07 | 0.7  | 0.7    | (+5.2)  | 1.0    | 5.4  | 3.7    | (+7.1)  | 3.9    | +0.8 | +0.7   | +1.5 |        |
| 05/08 | +2.4 | +1.9   | (+6.2)  | +2.3   | +3.9 | +5.1   | (+8.3)  | +3.9   | 0.3  | 0.1    | +0.4 |        |
| 05/09 | 0.0  | +0.5   | (+6.5)  | 0.6    | 2.0  | 0.1    | (+6.9)  | 1.8    | +0.1 | +0.0   | +0.2 |        |
| 05/10 | +1.2 | +1.1   | (+7.5)  | +1.7   | +3.1 | 0.1    | (+8.4)  | +1.1   | +0.5 | +0.2   | 0.1  |        |
| 05/11 | +0.6 | +0.5   | (+7.3)  | +0.6   | +5.4 | +0.6   | (+8.4)  | +0.2   | +0.6 | +0.8   | +1.0 |        |
| 05/12 | +3.5 | +2.3   | (+6.0)  | +3.2   | +1.3 | +0.9   | (+5.8)  | +3.5   | +0.0 | +0.1   | 0.5  |        |

(出所) 商務省

(注) 四半期は前期比、月次は前月比伸び率。( )内は季節調整値の前年比。

### 耐久財受注は前月比 +1.3%、除く輸送機 械は同+0.9%とな り、さらに過去の実 績も大幅に上方改定 された

05年12月の耐久財受注は、前月比+1.3%と市場予想である同+1.0%を上回った。10、11月合計で1.1%上方改定されており、実体はかなり強いといえる。輸送機械が同+1.9%(11月同+16.5%)とプラス基調を維持した。また、耐久財受注は3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+31.8%と加速した。一方、耐久財受注の基調を示す変動の大きい輸送機器を除いた耐久財受注は前月比+0.9%と市場予想の同+1.0%を下回ったものの、10、11月合計で1.3%上方改定されており、予想対比かなり強い内容。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+8.7%と加速していることから、耐久財受注のモメンタムは強まっていると判断される。

耐久財在庫が前月比+0.0%と小幅増加した一方、耐久財出荷が同+3.5%と加速したことから、耐久財在庫率は1.292ヵ月(11月1.337ヵ月)と過去最低水準を更新した。出荷が高い伸びとなったものの、耐久財受注がプラスを維持したことから、耐久財受注残は同+2.4%(11月同+3.2%)と比較的高い伸びを維持しており、目先耐久財生産の拡大持続が予想される。このため、稼働率の上昇が持続すると見込まれることから、物価の安定が続くもと利上げが継続される公算が大きい。

## 一般機械、輸送機械受注の好調持続

業種別の受注動向をみると、一次金属、コンピューター・電子機器、電気機械が減少した一方、加工金属、一般機械、輸送機械が増加した。コンピューター・電子機器では、コンピューター・同関連製品が同+1.5%（同+8.1%）と増加したものの、通信設備が前月比3.3%（同5.5%）と減少したため、全体でも同1.1%（同+2.0%）と縮小した。もっとも、コンピューター・同関連製品は前年比+22.8%と好調を維持している。輸送機器では、非国防航空機・同部品は11月にボーイングの海外から受注好調を映じて前月比+133.8%と急拡大した反動もあり同8.1%と減少に転じた一方、12月に販売が増加した自動車・同部品が同+6.6%と3ヵ月ぶりに増加した。

## 機械・ソフトウェア投資は年末にかけて拡大ペース加速

次に設備投資関連の指標をみると、機械・ソフトウェア投資の一致指標である非国防資本財出荷（除く航空機）は、12月に前月比+3.2%（11月同+0.6%）と加速した。10～12月期は前期比年率+14.9%と7～9月期の同+3.2%から拡大ペースが速まったことから、10～12月期の機械・ソフトウェア投資が7～9月期の前期比年率+8.7%から加速したことを示唆している。

一方、機械・ソフトウェア投資の先行指標である非国防資本財受注（除く航空機）は、12月に前月比+3.5%（11月同+0.2%）と加速した。10～12月期には前期比年率+10.3%と7～9月期の同+4.0%から速まっており、2006年1～3月期の機械・ソフトウェア投資も好調を維持すると予想される。

## 2006年前半は平均で前期比年率+3%台後半の成長

耐久財受注に影響を与える景気は、2006年前半に平均で前期比年率+3%台後半の成長が見込まれる。1月入り後の個人消費は、雇用・所得の拡大が続くなかマインドの改善や天然ガス、ガソリン等のエネルギー価格の最高値からの下落、値引き販売の増加もあり底堅く推移している。今後、エネルギー価格の高止まりが続くなかで、雇用・所得の拡大、資産残高の増加が続くと予想されることから、2006年前半の個人消費は平均で前期比年率+4%台への加速が見込まれる。

## 住宅投資は金利の上昇によって拡大ペース鈍化

住宅部門をみると、利上げに伴うモーゲージ金利の上昇によって住宅販売は減少傾向を辿ると予想される。ただし、雇用・所得の拡大、住宅購入需要の強い世代の人口に占める割合が高いこと等を背景に急減する可能性は小さい。

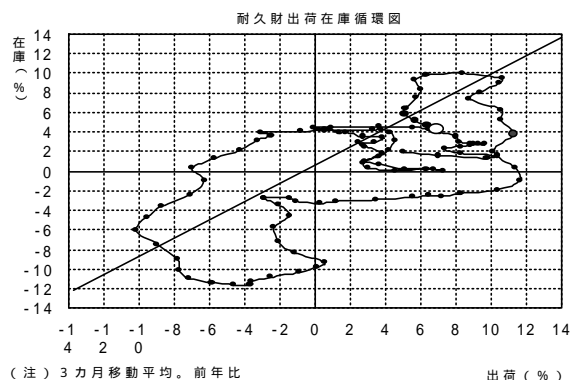
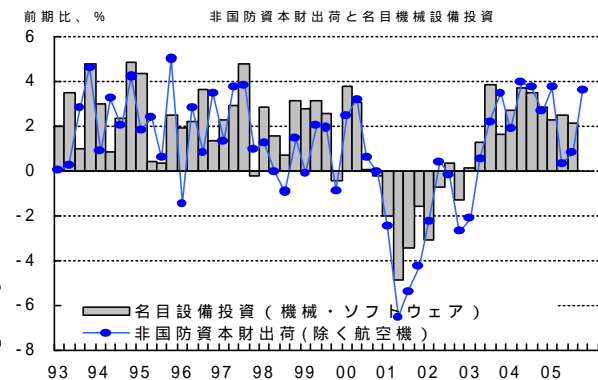
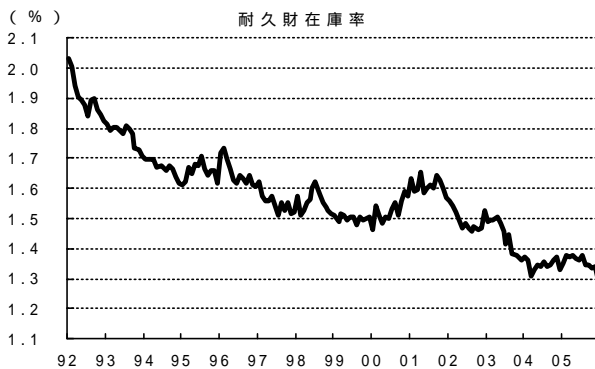
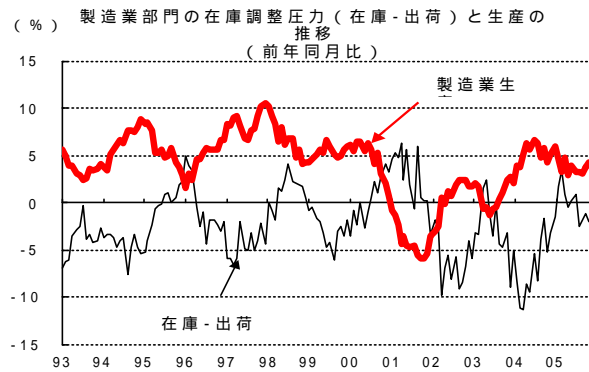
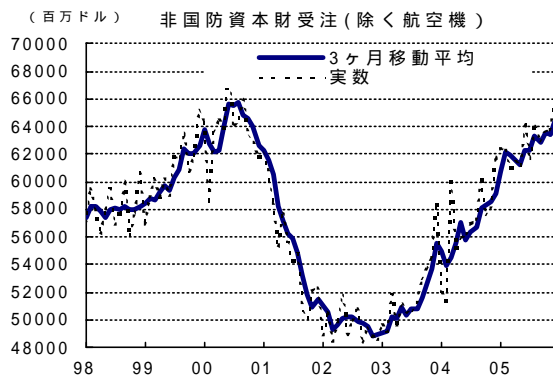
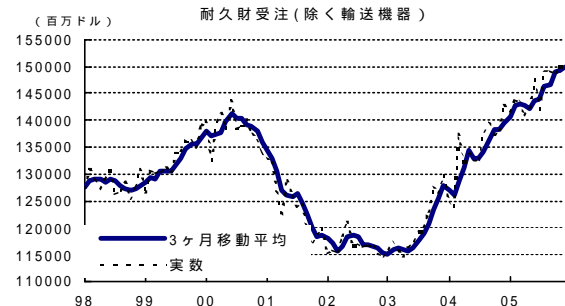
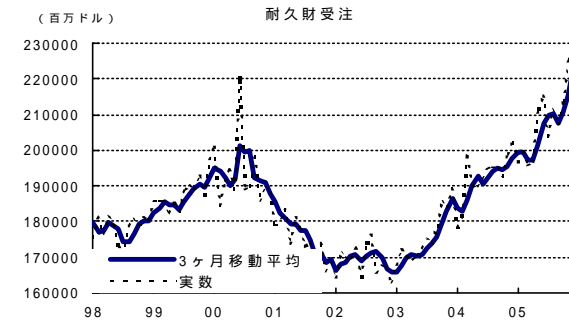
また、住宅着工件数は、建設中、許可済み未着工の件数が70年代以来の高水準となっていることから高水準を維持しながらも拡大ペースが鈍化しており、住宅投資は減速傾向を辿る公算が大きい。

## 設備投資は2006年前半も堅調に推移

企業部門では、設備投資は堅調な成長によって期待成長率が高まるなか、コスト削減圧力の強まりによる効率化投資需要の高まり、稼働率の上昇、オフィスビル空室率の低下、コンピューターの更新投資や規制緩和に伴う通信業での光ファイバー投資計画の増加等によって投資需要は強い。また、資金調達面では業績の拡大持続や雇用創出法の失効を前にした海外利益の資金還流促進によるキャッシュフローの拡大、株価の上昇、信用スプレッドの縮小等投資を行いやすい環境にあり、設備投資は堅調さを維持するとみられる。さらに、年後半には中小企業向け投資促進税制が2006年末に終了するため駆け込み需要が期待されることから、設備投資は好調さを維持すると見込まれる。

在庫投資では、商品価格の上昇が続くもと投入コストの上昇によってコスト削減圧力が強いことから、企業が在庫の積み増しに慎重な姿勢を維持すると見られる。しかし、国内需要の堅調に加え、海外需要の加速により在庫投資の拡大ペースも10~12月期以降加速が予想される。

以上のように、今後も内需が堅調に推移することや商品価格の高止まりが予想されること、中国、インド、アラブ諸国での航空機需要の拡大が続くとみられることから、耐久財受注は2006年前半も拡大基調を維持する公算が大きい。



(注) 3カ月移動平均。前年比 出荷(%)